

東映アニメーション 2026 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

質疑応答(2025 年 10 月 30 日)

【ご質問①】

中期経営計画についての質問です。対象期間の最終年度では、売上高 2000 億円、営業利益 500 億円と、利益率が低下していますが、どのような要因によるものでしょうか。

【ご回答①】

先程ご説明の通り、今回の中期経営計画では、10 年後に「世界に冠たる東映アニメーションブランド」の確立を目指す上で、この 5 か年を、新たな事業基盤を作り上げる“仕込期間”と位置付けています。既存事業の強化や新規事業への挑戦のため、様々な領域で先行投資を行う計画ですので、確かに収益性という観点では一時的に低下しますが、5 年後には、一層のグローバルな飛躍に向けた体制の準備が整い、以降、利益水準と収益性の両面において向上する計画としています。

ご期待ください。

【ご質問②】

「DRAGON BALL STORE TOKYO」が11月にオープンするとのことですが、どのような狙いがあるのでしょうか。今後の展開余地についても教えてください。

【ご回答②】

11 月 14 日に東京駅にてオープンします「DRAGON BALL STORE TOKYO」は、世界初となるドラゴンボールのオンリーストアです。世代も国も超えて長年愛されている超メジャー作品の「ドラゴンボール」ではありますが、まだまだ伸びしろはあると考えておりますし、新しいチャレンジを絶えることなく続けていくという我々の意思の表れの一つがこのストアであるをご理解ください。

店舗としての収益もさることながら、このストアで作品の世界観やキャラクターの魅力をしっかり伝えることでファンとのエンゲージをさらに高め、既存ファン以外の方々にも訴求することができれば、IP そのものの価値向上にも大いに貢献しれくれるだろうと期待しています。

【ご質問③】

中期経営計画の KPI のうち、株主還元向上についてうかがいたい。
総還元性向の記載があるが、自社株買いも検討するのか。

【ご回答③】

中期経営計画に記載のとおり、株主還元については、総還元性向 50%程度、配当性向 40%、現状の配当水準を下限とした安定配当を掲げました。このうち総還元性向については、中計最終年度に於いて、5%目途としています。従来からの配当に加え、特別配当・記念配当や自社株買いなども視野に入れて還元を行う予定です。具体的な還元の実施にあたっては、その時々業績水準や戦略投資案件等を睨み、総合的に決定いたしますが、資本効率の意識をしっかりと持ち、不必要に現金を抱え込むことの無いような運営を行います。

【ご質問④】

中計期間の 500 億円のインオーガニック投資について、重点領域はあるのでしょうか。また、見えている案件があれば教えてください。

【ご回答④】

重点領域は、IP 強化、スタジオ強化、事業シナジー追及の三つです。
現時点では、具体的な案件名や領域ごとの投資金額は開示できませんが、候補案件はロングリストからショートリストにまで絞込み、経営陣で個別対応を進めている状況です。続報にご期待ください。

【ご質問⑤】

中計最終年度のセグメント別売上予想で、商品販売、イベント事業の売上比率が伸びていますが、こちらに重点を置く理由はあるのでしょうか。原価が重いビジネスでもあるので、利益率の観点でもどのような方針なのかうかがいたいです。

【ご回答⑤】

商品販売やイベント事業というのは主にイベントやショップなど、ファン、ユーザーの方々と近いところで行なう事業を指しているのですが、この分野は現在主力である映像事業、著作権事業と比べてもまだまだ伸びしろがあると思いますし、趣向を凝らして様々な形で顧客接点を増やしていくことが本セグメントだけでなく当社の事業の根幹である IP そのものの価値向上にも大いに貢献することになると考えています。また、今後事業の規模を拡大していく中で、ある程度以上の規模と継続性があるからこそできる効率化、合理化にも積極的に取り組んでいきます。

【ご質問⑥】

従来、グローバル戦略の3本柱としていた「輸出型・地産地消型・ハリウッド型ビジネス」は、本中計ではどのように整理されるのか。

【ご回答⑥】

従来ご説明していたグローバル戦略の3本柱のうち、地産地消型、ハリウッド型として紹介していた IP は、今回の中計では、海外での新規創出 IP として、また輸出型は、全世界 IP や成長・育成 IP として、いずれも IP ポートフォリオ軸の観点で包含・整理しています。例えば、輸出型と整理していた IP 群の中で、今後ハリウッド型や地産地消型の手法を用いた全世界展開を行う、また地産地消型で創出した IP を日本を含む他地域に輸出することもあるため、整理する切り口を変えたことによるものであり、従来からの海外戦略をトーンダウンしたわけではないこと、ご理解ください。

【ご質問⑦】

「プリキュア」の映画が好調に推移しているが、成功要因はなにか。また、プリキュア IP はどのように今後拡大していくのか。

【ご回答⑦】

成功の要因はいくつかあるとは思いますが、その一つに 20 年以上途切れることなく放映を続けてきた歴史による支持層の広がりというものが挙げられると考えています。一般的にプリキュアというと未就学の女兒向けアニメという認識をされていると思いますが、今や「プリキュア」は 20 代、30 代の大人層からも熱い支持をいただいております。それが先に述べた映画のヒットにも繋がっていると分析しています。今後「プリキュア」は、この支持層の厚さを大いに活かして、お子様だけでなく様々な世代にリーチするようなスピノフ作品やマーチャンダイジング施策を積極的に展開し、これからも途切れることなく作品をお届けし続けることが他社 IP には真似できない強みになると考えています。

【ご質問⑧】

9月にフジテレビ保有株の売出しがありました。株主構成にどのような変化があったのでしょうか。

【ご回答⑧】

9/10 付でフジメディアホールディングスが保有する当社株式(10,575 千株/約 300 億円分)の海外売出しを行いました。本海外売出しによって、欧米垂の機関投資家の方々から募集金額を大きく上回る需要を頂き、有力な SWF や LO の投資家を中核として、その他有力な機関投資家の方々にも幅広く分散配分させて頂き、海外投資家比率は、約 20%にまで増加しています。また、流通株式比率は 5%上昇して 32%となり、当社株式の流動性が向上するものと期待しております。

【ご質問⑨】

「ガールズバンドクライ」について、新作の映像化が発表されていたが、今後どのように展開していくのか教えてほしい。

【ご回答⑨】

昨年4月から放映開始していました当社のオリジナル作品「ガールズバンドクライ」ですが、1クール13話の放映終了後も着実にファンを増やし業績を上げ続けております。この作品の際立った特徴として、アニメとリアルのバンドを同時に展開させてお互いに盛り上げていくというのがあります。これが見事にハマり、バンドの方は9月の武道館ライブを満員にて成功させ、10月と11月にはTVアニメの総集編を劇場公開いたします。

また、日本のみならず中国を筆頭にアジアでの人気もかなり上がっておりまして、海外ライセンス事業は右肩上がり、先程ご報告した武道館ライブにも海外からのファンが多数ご来場されました。そして先日新作映画の製作も発表しましたので、今後の当社のフラッグシップ作品にまで高めていくべく様々な展開を企画していきます。

【ご質問⑩】

足元の為替感応度、為替影響額を教えてください。

【ご回答⑩】

当社は、売上の過半が海外向けで構成されていますので、基本的に「円安」は、収益面で好ましい後押し要因です。個別には様々な複雑な契約条件となっている上、守秘義務もあることから、当社として為替感応度については開示しておりませんが、可能な範囲でお話しします。

地域別には、アジア、北米、欧州の順で売上金額は大きいのですが、アジア地域も米ドルで決済されるビジネスが多く、米ドルでの取引が大宗を占める形

となっています。またセグメントとしては、海外映像と海外版權の部分が為替変動の影響を受けることになります。

期初に設定したドル円予算レートは145円でしたが、上半期は単純平均ですが、約145.6円で決済しており、業績への影響は軽微です。

2025年度下半期については、145円で計画を建てています。詳細は開示しておりませんが、1昨年より一部の大口取引については為替予約で押さえるなど、為替動向を注視の上、アクティブな対応も行っています。

足元の相場状況は円安基調が続いていますが、FRB/連邦準備理事会や日銀の金融政策などマクロ環境としては依然として予断を許さない状況でもあり、注意深く適切に対応していきたいと思えます。

以上